

一人芝居を書いてみよう

大阪文学コース

脚本

目的

- ・2人の登場人物がからむ設定で一人芝居の脚本を創作し、実際に俳優が演じる。

効果

- ・5W1H・起承転結と、主人公の役柄としての行動を意識して脚本を書き、俳優に演じてもらうことにより、コミュニケーションをする上で重要な点を知る。

到達点

- ・事象や考えが正確に伝わるような文章表現の技術や演じる俳優の感情や動きを配慮して創作することを学ぶ。



講師
やぎ
八木
延佳

略歴

ドラマティチャー・演劇プランナー
国立文楽劇場、劇団四季、東宝
戯曲研究会をへて、演劇公演、ワー
クショップ、セミナーなどで活躍。
関西学院大学、神戸山手短期大学、
大阪府立東住吉高校で講師。
関西文学編集次長、応用ドラマ
教育研究会事務局長。日本演劇
学会、日本劇作家協会、日本演
出者協会、獲得型教育研究会、
日露演劇会議に所属。



●ワークショップ前後の授業時
間も活用して、準備、脚本創作、
完成、添削の作業を進めると効
率的に進行する。



事前学習

通常の国語表現の授業で、「物語」を作る程度まで
予備知識を入れておく。

ワークショップの流れ（4日間く1コマ/日）

脚本の要素と、課題となる一人芝居について講義



2人の登場人物のからみをペアで考え、台詞演習



戯曲・脚本・シナリオの違いについて講義



脚本の構成を作り、改良点をアドバイス



台詞の役割の説明と、書き言葉を話し言葉に換える演習



生徒が創作した脚本1つを選び、実際に俳優が実演し、
創作側（生徒）と実演側（俳優）の感想発表および合評

事後学習

学んだ点、感想、将来への夢などを書いたレポートを
提出する。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

自分ではわかっていることを、相手に正確に、わかりやすく、面白く伝えるということを学んだと思う。また、書き言葉が俳優の体を通して、他者の感情が乗った話し言葉に置き換えられていく様子、つまり、自分が創作した脚本が他者との協働で創造物として完成していく過程と結果を学んだと思う。

先生の感想

生徒たちは回数を重ねるごとに興味関心がでてきて、集中力を高めていった。生徒だけでなく、自分にとってもあまり知識のないことだったが、丁寧な指導により、大変わかりやすく勉強になった。最終日にプロの俳優が来校し、生徒の作品を演じて感想を述べていただいたことで、生徒はたいへん自信がついたと思う。

生徒の感想

- ・舞台の道へ進みたいと思っていたので、脚本や感情の動きなどとても勉強になった。
- ・初めて脚本を一から作って、難しさとか楽しさを感じ、完成した時の達成感がすごく良かった。
- ・自分の作品が選ばれて、俳優さんが演じてくれたので、緊張したがとても嬉しかった。

より発展的な ワークショップを 実施するために

- 演劇部に協力してもらって、脚本をリーディングしてもらい、改稿して練り上げる。
- 大道具、小道具、衣裳に工夫を凝らして、試演会を開催する。